

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

2025年 4月 11日

群馬県知事 山本 一太 殿

提出者

〒370-0101

住所：群馬県伊勢崎市境東新井1301番地1

境北部工業団地

氏名：ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株)群馬工場

工場長 寺本 幸司

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号0270-76-3345

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社 群馬工場
事業場の所在地	群馬県伊勢崎市境東新井1301番地1 境北部工業団地
計画期間	2024年4月1日から2025年3月31日まで

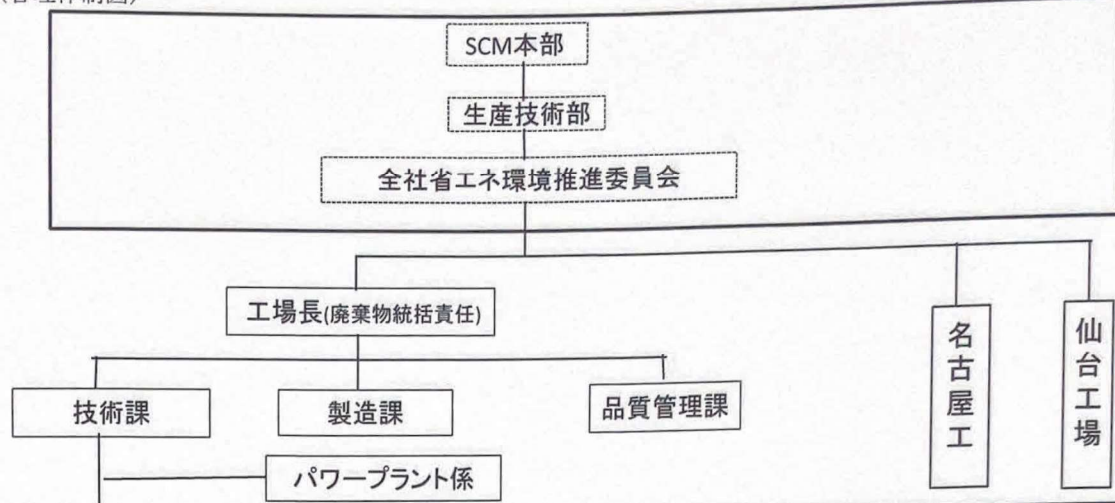
当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	大分類 製造業、中分類 飲料・たばこ・飼料製造業
②事業の規模	売上高 20,084 万円(前年度実績)
③従業員数	100名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	<p>・動植物性残渣(コーヒー粕・お茶粕・おから)、別紙添付廃棄物フロー参照</p> <div><div>コーヒー・お茶・大豆処理工程</div><div>↓</div><div>抽出・搾汁工程</div><div>↓</div><div>抽出粕・おから</div><div>↓</div></div> <div><div>搬出(収集運搬業者)</div><div>↓</div><div>中間処理業者</div><div>↓</div><div>最終処分業者(肥料化)</div></div>

（日本産業規格 A列4番）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

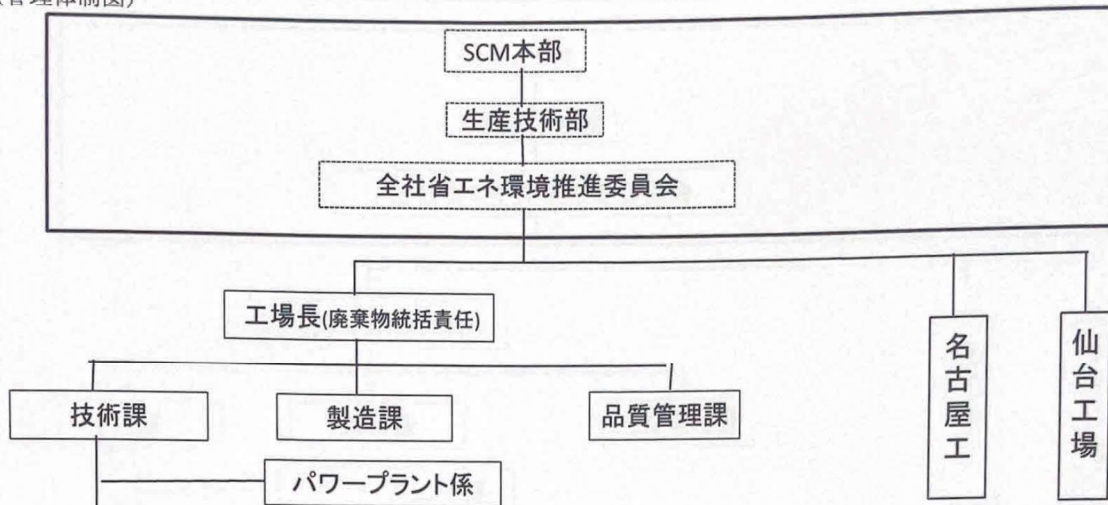
①現状	【前年度（2024年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	廃アルカリ
	排出量	1378.18 t	114.1 t
	(これまでに実施した取組) 事業縮小に伴い、現状に即した排出量へ低減できた		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	廃アルカリ
	排出量	378 t	108 t
	(今後実施する予定の取組) 事業譲渡のため廃アルカリはなくなり、動物性残渣の排出量も減少します。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 動植物性残渣である、コーヒー粕、ウーロン茶粕、お茶粕、紅茶粕、おからについては、貯留タンクを分け、現場より排出される際に貯留タンクを選定する事で分別している。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 継続して分別に取組み、適正な廃棄物処理を行っていく。

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

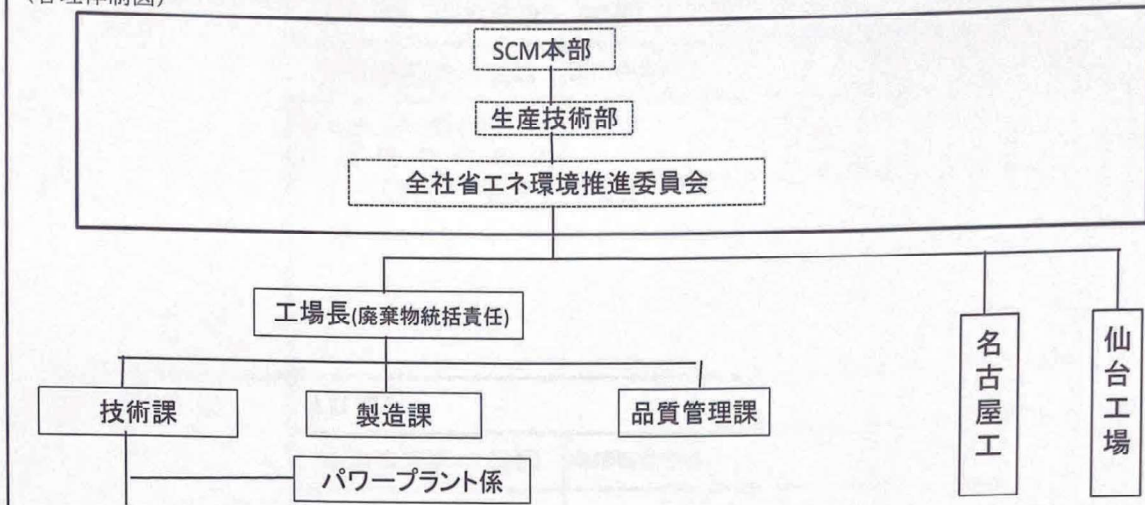
①現状	【前年度（2024年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃油
	排出量	75.31 t	0.6 t
	（これまでに実施した取組） 廃プラスチック類については継続的に分別を行い、できる限り有価物として排出し、廃棄物の排出量低減に努めた。 廃油についてはオイル交換を適正周期に行うことで排出量抑制に努めている。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃油
	排出量	72 t	0.57 t
	（今後実施する予定の取組） 廃プラスチックは継続して分別に取組み、排出量を低減していく。 廃油は適正なメンテナンス手法の教育を行い余剰排出を低減する。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） プラスチックについて、分別を進め状態のいいものについて有価物として排出している。
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 徹底した分別により産業廃棄物から有価物へ転換していく。

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（2024年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず
	排出量	1069.066 t	0 t
	（これまでに実施した取組） 汚泥について適正な設備運転調整により余剰汚泥の発生量低減、含水率の低減を図っている。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず
	排出量	1016 t	0 t
	（今後実施する予定の取組） 汚泥について脱水汚泥では凝集性薬品の再評価を行い最適化を進める。また、排水処理設備の運転管理を向上し、イレギュラー時の汚泥引き抜きの発生を抑制する。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 製品廃棄による汚泥排出について、工程検査強化し生産工程から発生する製品ロスの削減に努めている。
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 継続して工程検査を強化し、製品ロスの削減に努める。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（2024年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	廃アルカリ
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	廃アルカリ
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（2024年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	廃アルカリ
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	廃アルカリ
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	- t	- t

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（2024年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃油
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃油
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（2024年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃油
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃油
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	- t	- t

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（2024年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組) 実施していない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組) 実施の予定なし。		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（2024年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	15672.9 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 排水汚泥は含水率の低減を目指して脱水機の調整を行った。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	14889 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 生産工程検査の強化と排水処理、脱水機の運転調整を適宜実施していく。		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（2024年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	廃アルカリ
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組) 実施していない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	廃アルカリ
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組) 実施の予定なし。		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（2024年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	廃アルカリ
	全処理委託量	1378.18 t	114.1 t
	優良認定処理業者 への処理委託量	1280.64 t	114.1 t
	再生利用業者への 処理委託量	1289.33 t	114.1 t
	認定熱回収業者 への処理委託量	88.85 t	0 t
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 動植物性残渣は敷料・肥料・燃料化への売買を実施し、産業廃棄物の 減量化に努めた。廃アルカリは工程管理向上により歩留まりを改善し 排出量の削減を行った。		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（2024年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃油
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組) 実施していない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃油
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組) 実施していない。		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（2024年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃油
	全処理委託量	75.31 t	0.60 t
	優良認定処理業者 への処理委託量	3.99 t	0.60 t
	再生利用業者への 処理委託量	75.31 t	0.60 t
	認定熱回収業者 への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 廃プラスチック類は分別を徹底するように試み、産業廃棄物の減量化に努めた。廃油はメンテナンスの最適化により余剰排出量の削減を行った。		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度2024年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組) 実施していない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組) 実施していない。		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度2024年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず
	全処理委託量	1069.066 t	0 t
	優良認定処理業者への処理委託量	1069.066 t	0 t
	再生利用業者への処理委託量	1069.066 t	0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 汚泥は含水率を低減させるために排水処理設備、脱水機の運転管理に努め、産業廃棄物の減量化を図った。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	廃アルカリ
	全処理委託量	378 t	108 t
	優良認定処理業者への処理委託量	281 t	108 t
	再生利用業者への処理委託量	289 t	108 t
	認定熱回収業者への処理委託量	89 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 動植物性残渣・おからについては乾燥気設備による減容化を進めて行く。 廃アルカリについては更なる歩留まり改善に努め発生量の改善を目指していく。		
※事務処理欄			

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃油
	全 処 理 委 託 量	72 t	0.57 t
	優良認定処理業者 への処理委託量	4 t	0.57 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	72 t	0.57 t
	認定熱回収業者 への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 廃プラスチック類については更なる分別の徹底を検討していく。 廃油についてはメンテナンス作業の最適化を継続し、余剰排出量の改善を目指していく。		
※事務処理欄			

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず
	全処理委託量	1016 t	0 t
	優良認定処理業者への処理委託量	1016 t	0 t
	再生利用業者への処理委託量	1016 t	0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 汚泥に関しては製造工程ロス削減の為の検査強化と、排水処理設備、脱水機の運転管理向上を継続的に進め、排出量の削減に努める。		
※事務処理欄			